

全国学力・学習状況調査からみる本校6学年児童の傾向と改善の方向について

本年4月22日に6学年を対象に全国一斉に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果を受けて、本校の傾向と改善の方向についてお知らせします。

この調査の目的は、「義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の結果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取り組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する」ことにあります。公表にあたっては、「調査により測定できるのは学力の特定の一部であること、学校における教育活動の一側面であることなどを踏まえ」た上で、調査結果の分析に基づいた本校の傾向を示し、日々の教育活動や今後の具体的な取り組みについて検討して改善に役立てたいと考えています。

1 【国語】 *全体的にととてもよくできています

（１）【話すこと・聞くこと】
A問題の「話し合いの観点に基づいて情報を関係づける」について正答率が80.8%と相当数の児童ができていましたが、B問題の「目的に応じて話し合いの観点を整理する」「質問の意図を捉える」「立場を明確にして質問や意見を述べる」に関しては全国や県の傾向と同様に正答率が下がります。目的に沿って話し合う活動の中で、発言者・司会者・記録者・聞く人などの役割を明確にし、互いの発言をそれぞれの立場で検討する指導を大切にしていきたいと思います。
（２）【書くこと】
「情景描写を正しく理解する」「複数の事柄を並列の関係で書く」「文の意味のつながりを捉える」など選択式や短答式の問題は正答率が高いのに対し、「分かったことや疑問に思ったことを整理し、それらを関係付けてまとめて書く」という問題のように、記述式の問題では正答率が下がる傾向にあります。物語や説明文など、本文の表現を用いながら、根拠を明確にして自分の考えをまとめていけるようにする指導を大切にしていきたいと思います。
（３）【読むこと】
「物語の登場人物の人物像を捉え、相互関係を明確にしながらか読む」「新聞の投書を読み表現の仕方を捉える」ということに関する問題は正答率も高く相当数の児童ができていましたが、「複数の考えを関連付けて読む」「二つの詩を比べて読み表現の工夫を捉える」という問題では42.3%～78.8%と設問によって正答率に大きな差がありました。複数の考え方や詩を様々な着眼点から解釈し、自分の考えと相手の考えとを比較しながら、どのような点が共通していたり、相違していたりしているかを考えながら、友達と交流できるようにする指導を大切にしていきたいと思います。
（４）【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】
「漢字を読む」ではすべての設問でよくできていましたが、「漢字を書く」では「皿」の正答率が100%に対し「祝う」の正答率が55.8%、「故事成語の使い方」では「五十歩百歩」の正答率73.1%に対し「百聞は一見にしかず」の正答率が59.6%と、設問によって正答率に差が出ました。漢字や熟語などの意味と使い方を理解し、ドリルや家庭学習などで定着を図る指導を大切にしていきたいと思います。また、故事成語に興味をもち、その意味を調べてカードに記録するなど、先人の知恵や教訓、機知に触れ、実生活の中で起こる出来事や、その様子を故事成語を用いて表す指導を大切にしていきたいと思います。また、日本の伝統的な文学作品や文語調の文などにも親しむことができるよう指導していきたいと思います。

2 【算数】 *全体的にととてもよくできています

（１）【算数A】主として知識に関わる問題
◇算数A問題の正答率は全国平均・県平均を大きく上回っています。領域別にみると、「数と計算」と「数量関係」の正答率が83.5%など、「量と測定」と「図形」もしっかり定着しています。今後もさらなる学力の向上を目指し、既習内容の剥落を防ぎ、基礎的・基本的な知識や技能の定着を図っていくために、繰り返しのドリル学習や、家庭学習を充実させていきます。

◆設問別にみると、次の3問でやや全国に比べると正答率が低くなっています。

- ①「 $46 + 57$ 」の繰り上がりのある計算。「 $100 - 2 \times 4$ 」や「 $2 \div 5$ 」「 $1/3 + 2/5$ 」など他の複雑な計算の正答率が高いことから分析すると、計算ミスがあったためと思われます。時間内に早く正確に計算する練習や、ミスを減らすための確かめ算などの習慣が身につくように指導していきます。
- ②「 8 m^2 に16人いる部屋について、 1 m^2 当たりの人数を求めるための式を書く」の単位量当たりの問題。正答率は全国平均をやや上回りましたが県平均をやや下回りました。単位量当たりを求める場合の除法の式を立てることを苦手としています。図などの具体的な操作を示し、 8 m^2 に16人を等分する(等分除)であることを捉えられるように指導していきます。
- ③「正五角形の一边の長さを□cm, まわりの長さを△cmとした時の、□と△の関係を正しくあらわしている式を選ぶ」の二つの数量の関係を□や△などの記号を用いて式に表す問題。正三角形や正方形の1辺の長さともわりの長さの関係を、□や△などの記号を使って表わす学習は経験してきていますが、その内容を想起できなかったことや、正五角形(正多角形)の性質として、「すべての辺の長さが等しい」ということが十分理解できていませんでした。一方の大きさが決まればもう一方の大きさが決まるといった、伴って変わる二つの数量の関係を表したり調べたりすることができるよう指導していきます。

(2)【算数B】主として活用に関わる問題

◇算数B問題の正答率は全国・県平均を大きく上回っています。領域別にみると、「図形」の正答率76.9%をはじめ、「数と計算」「量と測定」「数量関係」もしっかり定着しています。今後もさらなる学力の向上を目指し、基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるよう指導を重ねていきます。そのために、考えたことを自分の言葉で説明したり記述したりする活動(算数における言語活動)の充実を図っていきます。

3【児童質問紙からの傾向】

学習環境・学習意欲・学習方法・生活の諸側面に関して、次のような良さと課題があります。

- ◇テレビやビデオ・DVDを見る時間、テレビゲームや携帯式ゲームをする時間、携帯電話やパソコンなどを使ったり見たりする時間は少なく、学校の授業以外に学習する時間や読書をする時間、ニュースなどを見る時間が多くなっています。家庭でのルール作りや学習環境、生活習慣がきちんとしていて、学力の向上にもつながっています。
- ◇家庭学習は家できちんとし、予習や復習など自分で計画を立てて学習をしているという回答が多くなっています。家庭学習の習慣が身についていて、学力の向上にもつながっています。また、家庭での学習習慣や基本的な生活習慣が身についている児童ほど学力が高いという結果につながっています。
- ◇学校が楽しいと感じ、みんなで協力して何かをやり遂げる喜びを感じている子が多く、居心地がよく安心して生活でき、意欲的に学ぶことができる学級であることが、学力の向上につながっています。
- ◆「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか」の問いに対して、「そう思う」という児童の割合は低くなっています。話し合ったり説明したりする活動を充実させ指導していきます。
- ◆「400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思いますか」の問いに、「そう思う」という回答が多くなっています。国語や算数で記述式の問題が苦手であるという結果も踏まえ、説明したり書いたりといった言語活動の充実を図り、全教科で指導していきます。
- ◆「自分には、よいところがあると思いますか」の問いで「そう思わない」の割合が多く、自尊感情がやや低くなっています。自己の良さや頑張り、成長や進歩が感じられるよう、今まで以上に良さを認め合う指導を充実させていきます。

本校の児童は家庭や地域の教育力に支えられて健全に育っており、学校生活も楽しく充実したものになっていると感じています。今後さらに、学校や家庭での過ごし方の振り返りをするとともに、人から言われてやるのではなく、自分から進んで学習する「鍋っ子学習(家庭学習の手引き)」を指導していきたいと考えています。一人ひとりの生活や学習の仕方を見直して改善していくことが、学力の向上とともに健全な育ちにつながっていきます。学校とご家庭との連携を一層取り合っていきたいと思います。

以上のように、この調査から見える成果や課題をしっかり受け止め、指導・支援の充実を図り、確かな学力の向上に努めてまいります。また、ご家庭においても、生活習慣や学習環境、家庭学習の在り方等についてさらなる改善に向けて、ご理解とご協力をお願いいたします。